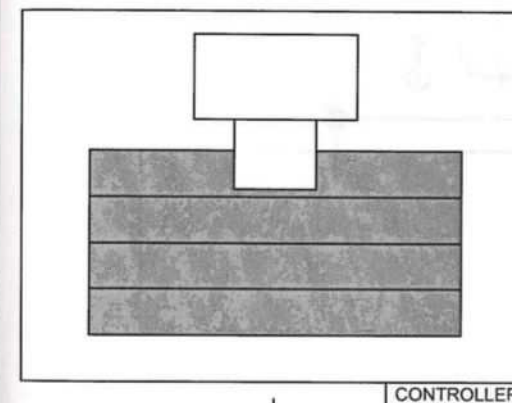


2. VCN 700D-II

項目	単位	仕様				
		24 本マガジン (標準)	48 本マガジン (オプション)	60 本マガジン (オプション)		
能力・容量	作業テーブルの寸法	左右	1740			
		奥行き	700			
	テーブル: 左右移動量	X 軸	1530			
	サドル: 前後移動量	Y 軸	700			
	主軸頭: 上下移動量	Z 軸	650			
	主軸端面からテーブル上面まで	最小	200			
		最大	850			
	主軸中心からコラム前面まで	mm	722			
	テーブル最大積載質量(等分布)	kg	2000			
	主軸	主軸テーパ穴	7/24 テーパ No. 50			
標準		主軸速度	35~8000(電気式 2 段)(標準) 35~7000(オプション主軸 ハイトルク仕様)			
		主電動機 (AC インバータモータ)	30 分定格	30		
			連続定格	22		
送り速度		早送り速度	m/min	30		
	切削送り速度	m/min	30			
テーブル	作業テーブルの寸法	左右	1740			
		奥行き	700			
	T 溝	呼び寸法(ISO R299)	mm	18		
		本数	本	5		
		間隔	mm	125		
	テーブル最大積載質量	kg	2000			
	機械底面からテーブル上面まで	mm	950			
ATC ツール マガジン	工具収納本数	標準	24	48	60	
	工具選択方式	-	マガジンポケットナンバのランダム選択、 自動近回り方式			
	ツールシャンク	-	MAS BT-50			
	工具最大径	隣接工具あり	mm	φ105	φ125	
		隣接工具なし	mm	φ210	φ250	
		隣々接工具なし	mm	φ250	-	
	最大工具質量 (ツールシャンク・ブルスタッドを含む)	kg	20			
	マガジン全体の最大収納質量	標準	kg	240	480	600
	最大工具長さ(ゲージラインから)	mm	400			
	工具交換時間 (チップ・ツール・チップ)	工具質量 10 kg 未満	s	4.4		
工具質量 10 kg~20 kg		s	5.2			
タンク容量	主軸潤滑油タンク容量	L	1.8			
	送り系潤滑グリースタンク容量	cm ³	400			
	主軸冷却油タンク容量	L	72			
	油圧ユニットタンク容量	cm ³	460			
	クーラントタンク容量(標準仕様)	L	380			

項目	単位	仕様			
		24 本マガジン (標準)	48 本マガジン (オプション)	60 本マガジン (オプション)	
機械の 大きさ	機械寸法(標準仕様)	高さ (フロアから)	2975		
		幅	4100		
		奥行き	3485	4180	4960
	機械質量(標準仕様)	kg	11500	12500	13300
	電源	電圧(3 相)	仕向地別	V	
			AC 200/220 ± 10% AC 380/400/415 ± 10%		
周波数			Hz		
			50/60 ± 1%		
電源容量(標準仕様)		30 分定格	kVA		
	連続定格	kVA			
エアース	圧力	MPa	0.5 以上 0.9 以下		
	容量(標準仕様)	L/min (ANR)	260		

運転時の最大騒音レベル(オペレータ位置で):



注意
この機械の空気伝導騒音の主音源は下記を含む

- 主軸ドライブ
- 送り軸ドライブ
- チップコンベア
- 工具自動交換

- 測定条件
- 主軸回転数 8000 min⁻¹(工具保持)
 - 送り軸駆動
 - チップコンベア ON
 - 工具自動交換作動

- 測定結果
- 騒音値 : L_{WA} = 75 dBA
 - 不確定値 : K = 4 dBA
- (測定方法 : EN-12415/12417/12478, ISO230-5)

“提示した騒音値は参考値であり、必ずしも安全作業レベルの値ではありません。作業者が実際にさらされる騒音環境は、機械自身のほかに、作業部屋やほかの騒音も含まれ、機械の数・ほかの隣接する次工程・作業者がさらされている時間にも影響されます。また、許容される作業環境も国により異なります。”

つまり、提示した騒音値と実際の騒音値には相関性がありますが、更なる予防処置が必要かどうかを判断決定するために、この提示した騒音値のみ信頼して使うことはできません。”

以下に原文を示します。(EN-12415/12417/12478 の序文より)

“The figures quoted are emission levels and are not necessarily safe working levels. Whilst there is a correlation between the emission and exposure levels, this cannot be used reliably to determine whether or not further precautions are required. Factors that influence the actual level of exposure of the work-force include the characteristics of the work room, the other sources of noise, etc. i.e. the number of machines and other adjacent processes, and the length of time for which an operator is exposed to the noise. Also the permissible exposure level can vary from country to country. This information, however, will enable the user of the machine to make a better evaluation of the hazard and risk.”

露点温度: -17°C 以下(大気圧)